

日・アゼルバイジャン外相会談に関する共同プレス発表（骨子）

1. 二国間関係

- ・ 2006 年 3 月のアゼルバイジャン共和国大統領の訪日以来、4 回に及ぶハイレベル政務協議の実施を含む、日本・アゼルバイジャン間の活発かつ有意義な対話を高く評価。
- ・ 相互理解の増進等を目的とし、両国外務省間の定期的な会合の実施を決定。
- ・ 相互理解の醸成と科学・教育・文化・保健の分野での協力拡大のため、二国間の人的・文化的交流の強化の重要性を認識。

2. 経済、経済協力

- ・ アゼルバイジャン側は、同国の発展のために一貫して実施してきた日本の政府開発援助（ODA）に対し、謝意を表明。
- ・ アゼルバイジャン側は、同国における、不発弾（UXO）による汚染地域の土壌浄化を目的とした「NATO-PfP 信託基金」プロジェクトに対する日本の貢献を高く評価。
- ・ 日本側は、アゼルバイジャン共和国の安定と繁栄が、コーカサス地域全体の平和と安定に資すると認識し、同国の民主化促進と市場経済化への努力に対する協力継続を表明。
- ・ 日本・アゼルバイジャン経済委員会の次回合同会議の早期開催の必要性を確認。
- ・ アゼルバイジャンの WTO への早期加盟を目的とした、これまでの二国間交渉を高く評価。
- ・ エネルギー分野における協力に関して、日本の民間企業が参加している ACG 油田開発プロジェクト及び BTC 石油パイプラインが順調に発展し、アゼルバイジャン経済に寄与していることを高く評価。

3. 「GUAM + 日本」

- ・ アゼルバイジャン側は、日本による GUAM（グルジア、ウクライナ、アゼルバイジャン及びモルドバ）に対する支援、並びに日本と GUAM 間の対話を高く評価。
- ・ 「GUAM + 日本」ナショナル・コーディネーター会合や貿易投資促進ワークショップなど、「GUAM + 日本」対話の継続が、観光、貿易及び投資、省エネルギー、環境保護といった共通関心分野での協力基盤を創設するとの確信を表明。

4. ナゴルノ・カラバフ問題

- ・ ナゴルノ・カラバフ紛争が、OSCE ミンスク・グループを含む多様なチャンネルを通じ、アゼルバイジャンの領土保全の原則等に基づいた平和的解決の重要性を強調。

5. 国連改革

- ・ 常任及び非常任双方の議席拡大を含む国連安全保障理事会の改革の早期実現のために共に取り組んでいく決意を表明。
- ・ アゼルバイジャン側は、日本国が安全保障理事会の常任理事国となることに対する強い支持を改めて表明したのに対して、日本国側は、同国の支持に深い謝意を表明。

6. 北朝鮮

- ・ 北朝鮮情勢を含め、相互に関心を有する国際問題について意見を交換。
- ・ 国連安保理決議第 1874 号の採択を再確認し、北朝鮮がこの決定及び関連の安保理決議を遵守しなければならない旨強調。
- ・ 拉致を含む北朝鮮の諸懸案を包括的に解決することが必要であることを強調。